

令和6年度 第4回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

- 日 時 令和7年2月14日（金）9時30分～11時00分
- 会 場 岡山コミュニティセンター 多目的ホール
- 出席委員 中川千恵美委員（会長）、久木康行委員（副会長）、山本一成委員、榎本祐子委員、北加奈子委員、大橋由喜委員、津田幸子委員、秋村加代子委員、伊崎葉子委員、井上和美委員、有森美紀委員、森茂次委員、大更秀尚委員、東山孝三郎委員
- 傍聴者 0名

○議題

- （1）パブリックコメントの実施結果および回答について
- （2）第3期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画（素案）について
- （3）こどもの意見聴取のフィードバックの実施について

会長挨拶

今年度最後の会議となる。パブリックコメントでは、100を超える多数のご意見をいただいた。市民の皆様に関心をもっていていただいていると前向きにとらえ、意見をふまえて素案を修正いただいたので、市長へ報告できるよう内容の確認をいただきたい。

1. パブリックコメントの実施結果および回答について

委 員：市内約5万人の大人の人口のうち17名からしか意見が出ていない。意見があったのは教育関係や子育てに関わっている人でごく一部である。多くの市民から意見をもらうためにも意見を募集する方法を考える必要がある。

会 長：今回の結果は、他市のパブリックコメントに比べても意見数はとても多いと感じている。また、前期計画よりも多くのご意見をいただいた。それだけ多くの当事者や支援者に関心を持っていただいているのではないか。第1期計画からのパブリックコメントにかかる結果の推移等はあるのか。

事務局：本日は正確な数値を持ち合わせていないが、第1期、第2期計画よりもいただいた意見の数が増えている。今回いただいた意見には、関係機関だけでなく、子育て中の市民の方からの意見もあった。

委 員：一時預かりの費用が高くて利用できない等の意見について、「取り組みを推進していきたい」という回答ではあるが、取り組みについてどう具現化していくか、利用料などの具体的な話を進めていく必要がある。利用者に負担が少なく、従事いただく方にもしっかり対価を支払える方法を今後一緒に考えていきたいと思う。

こども家庭センター：利用料については、これまでも意見をいただいております、所得などの状況に応じて減免する措置等を設けている。すべての利用者に対する利用料の減額についてはこの場では即答できない。従事者の賃金を改善することが重要であると考えており、それとバランスをどうとるのか検討していく必要がある。

委 員：回答としてはこのままでよいが、今後の取り組みについての希望として具現化が図られていくことを願う。

副会長：放課後児童クラブに関して受け皿の確保も大事ではあるが、利用料について兄弟減免など様々な方法で利用者の負担が軽減でき、利用しやすい環境を作っていたきたい。経済面が理由で学童に通えない子どもが発生しないようにする必要がある。

子育て政策課：利用料については、国の基準を踏まえながら兄弟減免等の支援について今後こういった方法で実施ができるのかについて考えていきたい。

委 員：出生率が減っている中で、近江八幡は他市町よりも子どもの数が多い自治体だと感じるが、子育てしやすいまちだと感じたことはない。自身もこれまで何度か、市からのアンケートに答えてはいたものの、回答した内容について状況は全く変わらず、改善が見えてこない。回答者の意見が実現したときには、今困っている人はもう子育てを終えている状況ではないか。市長報告の際、市長に私たちの思いが伝わり、市が変わることを望む。

会 長：計画を作ることでなく、進捗管理についてもこの会議の重要な役割であるため、今後進捗状況について確認いただきご意見等をいただければと思う。また、当事者に届かないことが一番問題であると感じるため、周知方法を考える必要がある。

事務局：令和7年からは、本会議において、本計画の進捗確認をいただく予定をしている。策定した計画の内容について、しっかり実現に向けた実施ができているか、委員の皆様と協力しながら進めていければと思う。また、周知方法として、概要版等を作成し、市民に届けていきたい。

委 員：パブリックコメントの回答に記載の「努力します」「推進していきます」という表現について、いつまでにやるという表現にし、実現に向けて動いていただきたい。

会 長：具体的にどのように動いていくのかということがどう「見える化」していくかが重要であり、そのためにはやはり周知が重要な視点である。委員の皆様は、引き続き利用者目線で見守りをお願いしたい。また、行政だけではなく、支援者として、事業者として、個人として子どもと子育て家庭のために何ができるのか問われている。それぞれが協力しながら連携していくことが重要。

2. 第三期近江八幡市計画子ども・子育て支援事業計画（素案）について

会長：事務局より説明のあった素案について、これまでの議論をふまえ作成いただいた内容からパブリックコメントの意見を受けて一部修正をいただいた。これをもって、第三期近江八幡市子ども・子育て支援事業計画の内容を確認いただいたということで、この内容にて確定し、市長へ報告して良いか。

全委員：承知した。

委員：当事者それぞれのニーズは似ているようで異なる。一人一人のすべての意見に応えるのは難しいが、どの部分にニーズがあり、どこに重きを置くのかを考えることが必要である。計画段階で様々な人が取組について知り、市民と一緒に進めていくことが大切だと感じる。

副会長：放課後児童クラブの量の見込みと確保方策について、どのように算出しているのか。

子育て政策課：毎年実施をしている4・5歳児を対象とした利用希望把握調査の結果と各学年の放課後児童クラブの利用者継続率から算出している。

3. こどもの意見聴取のフィードバックの実施について

会長：フィードバックをした際の子どもたちの反応はいかがであったか。

事務局：資料の中に自分の意見が載っていることについて喜んでいる姿が見られ、こどもたちの意見を受け止め、大人がどのように受け止めたのかについて、返すことが大切であると感じた。

副会長挨拶

当事者と同じ感覚を持ちながら関わっていくことが大切であると感じた。また、市民の負担を減らし、希望することが自然に利用できる環境になることが望まれる。